

署名のお願い

2年前の1月9日。

息子 隆晴が亡くなって、寂しくて悲しい気持ちは日々積もり、現実起こったことを受け入れているつもりでも、まだ気持ちはフワフワして、それでも月日だけは過ぎていきました。

あの日を思い出すのは、つらいです。

あの時のことを思い出し、何があったのか整理しようとしても、まだ、いまだに、分からないことがたくさんあります。

何で、こんなことが起きてしまったのか。

朝、元気に「いってきます」と登校した息子を見送ったのが、最後になってしまったのか。

そして、また、同じことが起こったらどうしよう。

何をすれば、子どもの命を守ることができるんだろう。

テーマが大きすぎて、私ひとりでは、何もできないことばかりです。

答えが見つからなくて、涙が出ます。

でも、泣いているばかりではいけない。

隆晴には、いつも元気で笑っている母の姿を見てもらいたいので、今日も明日も、笑顔で前を向いて進みます。

事故のことを自分でも調べてみようとして、いろいろな方に相談したり、市役所へ通ったりもしておりますが、自分の力でできることは限られており、なかなか思うようにはいきません。

元気にお腹いっぱい朝食を食べた子が、3時間後に発症するものなのか。

あの泥だらけの体操服は、どこでできたのか。

子どもたちは、アンケートに何を書いてくれたのか。

自分の子どもが、12歳という年齢で、なぜ亡くなってしまったのか。

納得のいく答えは見つかるのか。

まだ、私にはわかりませんが、できる限りのことはしたいと思い、行動しております。

お力を貸していただけませんかでしょうか。

どうかよろしく願いいたします。

平成28年1月8日

母 北芝 嘉代子

文部科学大臣 殿  
兵庫県知事 殿  
三木市長 殿

平成26年1月9日、三木市立緑が丘中学校において、同校1年生であった北芝隆晴君が4階教室の窓から転落し、死亡するという事故が発生しました。

同事故を受け、第三者委員会として「三木市立中学校における事故調査委員会」が設置され、同委員会により、平成26年6月20日、調査報告書がとりまとめられました。

同調査報告書は、安全・安心な学校をつくるため、「自他の安全に対する自己責任感の育成が必要である」と結論づけています。しかし、安易に「自己責任論」を振りかざすことは、生徒の生命・身体の保護を考える上で弊害となりかねず、かえって危険を招来する危険があります。

また、調査の対象が事故の直接の原因究明に限定されており、事故を防げなかった複合的な要因や、事故後の生徒に対する心のケア、保護者に対する情報開示のあり方等、学校及び教育委員会の事後対応が調査の対象となっていないことは、事故調査として不十分と言わざるを得ません。

そこで私たちは、本件事故を風化させることなく、安全で安心な学校づくりの出発点とするために、公正な選任手続に基づいて選任された第三者委員会により、本件事故を未然に防げなかった要因、同種の事故を防ぐために学校がとるべき対策、事故後学校が行った生徒に対する心のケア及び保護者に対する情報開示の内容とその問題点等を改めて調査・検証し、安全かつ安心な学校を構築するために取り組むべき課題等を抽出した上、その調査・検証結果を公表して欲しいとの遺族の申し入れに賛同致します。

氏名	住所